

大分市水素利活用シンポジウム2019 出演者の紹介

佐々木 一成	国立大学法人九州大学 副学長 兼 水素エネルギー国際研究センター長
1993年スイス連邦工科大学チューリッヒ校工学博士号取得。10年間の在欧の後、2005年より九州大学大学院工学研究院・教授を務める。現在、九州大学副学長、水素エネルギー国際研究センター長、次世代燃料電池産学連携研究センター長、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所主任研究者を兼務しており、主に、固体酸化物形および固体高分子形燃料電池の材料・プロセス研究に従事し、九大「水素プロジェクト」を先導している。	

大平 英二	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）統括研究員 大分市水素アドバイザー
1992年NEDO入構。バンコク事務所次長、蓄電技術開発室室長などを経て、2013年4月より現職。多くの企業、大学が参画する技術開発プロジェクトのマネージャーとして、高効率で低コストの水素製造技術や水素を活用する新しいエネルギーシステム構築のための研究開発を推進。その傍ら、数多くの講演活動やメディアへの出演、地方自治体における水素エネルギー普及計画策定のための委員会への参画を通じて、水素エネルギーのわかりやすい情報発信に尽力。	

栗原 健太郎	北九州市環境局 環境国際経済部 温暖化対策課長
2001年に北九州市に入職後、同市の環境部門や法務、保育部門での従事を経て、2019年4月より現職。地球温暖化の防止や気候変動への適応を推進するための計画策定や政策立案を担当するほか、水素社会の実現に向け、「北九州水素タウン」における実証事業の拠点化や、再エネを利用したCO ₂ フリー水素の普及に取り組んでいる。	

上田 耕作	大分瓦斯株式会社 取締役開発部長
1973年大分ガス入社。技術管理課長としてガスの製造・供給の自動化など、工場設備の最新化に携わり、営業部長などを経て1993年より現職。大規模工場の空調ボイラー等の燃料転換や、コージェネレーションシステムの導入など、環境に優しい天然ガスの普及に取り組んでいる。現在、大分県新エネルギービジョン推進会議や大分市環境審議会、地球温暖化対策おおいた市民会議の委員なども務めている。	

桑野 恭子	認定・指定NPO法人地域環境ネットワーク 理事 エコアクション21地域事務局おおいた 責任者、一級建築士
2008年度までの3年間「大分県地球温暖化防止活動推進センター」の運営に携わり、現在も大分県環境教育アドバイザーとして幅広い層を対象に地球温暖化防止の普及啓発に取り組んでいる。また、2008年度から「エコアクション21地域事務局おおいた」の責任者として県内自治体と連携を図り、主に中小零細事業者を対象に環境経営システムの支援に取り組んでいる。「大分県新エネルギービジョン推進会議」の委員のほか、2016年度は「第2期大分市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の改定部会長を務めた。	